

令和4年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立長吉第二幼稚園

令和5年3月

大阪市立長吉第二幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人との関わりのもちにくさが課題である。地域の方との関わりでは、関わり方を状況に合わせて変えながら、心の交流が図れるように工夫し、直接的な交流が再開できたときにつなげていけるようにする。また、園内での異年齢交流を通し、人と関わる楽しさを味わえるようにしていく。
- 外出できる機会が減っている現状からも、子どもたちの体力向上に努めていく必要性を感じている。日々の園内での遊びに加え、地域の公園や園外保育なども活用しながら、存分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにしていく。
- 実態に応じ、必要な基本的な生活習慣が身につくよう、指導内容を工夫し、家庭と連携しながら、継続的に取り組んでいく。
- 教育環境の充実を目指し、教員研修を行い、就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、資質向上に努める。また、教員間で幼児の実態把握や教材研究を行ったりしながら、子ども達が様々な活動に主体的に取り組むことができるよう、環境構成を行う。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。
- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。
- 令和7年度末までに、保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末までに、保護者アンケートでの項目で「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。
- 令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。
- 令和4年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和4年度の保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

- 園内では、教職員が日々の保育について意見交換しながら連携し、日常的に、異年齢でふれあうことができた。また、コロナ禍でもできる交流を検討する中で、小学校と新たな方法で交流を行い、子どもの育ちにつなげることができた。保育所や中学校、支援学校との交流も再開することができた。様々な交流を通し、人と関わる楽しさや、優しさ、憧れなど、色々な気持ちを育てることができた。
- 計画の見直しを行いながら、様々な想定での避難訓練を行うことで、新たな課題を見つけ、改善していくことができた。子どもたちは、回を重ねるごとに落ち着いて行動できるようになり、変化が感じられた。降園指導では、雨天時に気を付けることなど、その時期ならではの課題があり、それを発信していくようにしたことで、保護者の意識向上につながった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 園内の運動遊具を見直して活用したり、異年齢で一緒に遊び、刺激を受け合えるようにしたりし、より遊びへの意欲がもてるようにした。冬でも寒さに負けず進んで体を動かす姿が見られる。また、小学校校庭や地域の公園やグラウンド、園外保育先など、園外的环境も使い、存分に体を動かして遊ぶ楽しさを味わった。
- 実態や発達段階に応じた保健指導を行ったことで、子どもたちが健康な生活習慣を意識して取り組もうとする姿が見られた。また指導内容を保護者へ発信したことで、家庭と連携することができ、保護者の理解につながった。長期休業中の歯みがきカレンダー等に、親子共に楽しめる工夫をすることで、子どもが自ら取り組もうとする姿が家庭でも増えていることが分かった。

【学びを支える教育環境の充実】

- 本園は自然が豊かである。その環境を生かし、植物の成長に関心をもてるようにしたことで、収穫の喜びを膨らませたり、命あるものとして、植物を大切に扱う心を養ったりすることができた。また、子どもたちと一緒に環境構成を行うことで、主体的に遊びようとする姿が増えた。今後も幼児理解、資質向上に努め、子どもたちが生き生きと活動できる環境を整えていく。

大阪市立長吉第二幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標通りに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安心・安全な教育の推進】 ○ 令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。 ○ 令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ○ いろいろな人と関わる機会をもち、心の交流を図る。	A
指標 ① 異年齢で関わる活動を月1回以上行う。 ② 地域の方々や近隣の小学校、支援学校との関わりを、コロナ禍の状況を踏まえながら活動内容を工夫し、年7回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】 ○ 年間計画に基づき、避難訓練や安全指導を行う。	B
指標 ① 「警備及び防災計画」や「安全（防犯）対策マニュアル」に基づいた年間計画を作成し、避難訓練を年8回実施する。 ② 降園指導を年3回実施し、実態に応じた内容で安全だよりを発行し、家庭へ啓発する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 令和4年度保護者アンケートの、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」が95%「やや思う」は5%であった。

- ① 異年齢で関わる活動を月1回以上行った。1学期、5歳児が花屋やたこ焼き屋、かき氷屋など、様々なお店ごっこで遊んでいたところに、3・4歳児も一緒に遊べるような場、時間を整えたことで、異年齢でお店屋さんのやり取りを楽しみ、交流をもつことができた。また、集会遊びの中で、全園児で体操やかけっこをしたことで、友達と一緒に活動する楽しさや、友達を応援したり認め合ったりする気持ちをもてた。

2学期には運動会で5歳児が取り組んだ活動『パラバルーン』や『よさこいソーランロック』に3・4歳児は憧れ、自分もやってみたいと意欲をもった。運動会後は、5歳児が自分たちの演技を年下の友達に優しく教えながら共に楽しみ、異年齢ならではの心の交流がもてた。

3学期は、生活発表会の各クラスの劇遊びや楽器、歌を見合った。友達の頑張っている姿を見ることで刺激を受け、いろいろな楽器や劇遊びのお話に興味をもち、一緒に役になって遊んだり5歳児に太鼓や木琴を教えてもらったりして異年齢で活動する楽しさを味わった。

園外保育時には5歳児が3歳児が安全に歩けるように手をつないで支えたり見守ったりし、回数を重ねるごとにより3歳児を守ろうと意識して行動できた。

普段からクラス間を行き来し異年齢での関わりを楽しみ、他クラスの友達と一緒に遊んでいる。異年齢での関わりが深まることで、4・5歳児は自然と3歳児へ優しく接するようになった。

- ② 地域の方々や近隣の小学校、支援学校との交流を8回行った。コロナ禍でもできることを考え、子どもたちがつくったプレゼントや手紙、七夕の笹などを地域の方々、特別養護老人ホーム、小学校、支援学校へ届けた。老人ホームからは子どもたちの手紙やプレゼントを手にとっておられる写真と手紙の返事をいただき、おじいさんおばあさんが喜んでくださっていることを実感することができた。直接的な交流は難しいが、このような取組を通して相手を思う気持ちが育ってきている。

5月には保育所の5歳児が幼稚園へ来て、本園の5歳児と一緒に遊んだ。園庭の遊具で遊んだり虫探しをしたりして、友達になり、また会えることを楽しみにしている。小学校とは、運動会前に5歳児が小学校へ行き、3・4年生とソーラン節を通した交流を楽しんだ。活動後、小学生から温かい言葉をかけてもらい嬉しい気持ちを味わうと共に、小学生の素敵な姿に憧れを抱き、次の活動への意欲づけと進学への期待につながった。

中学校とのオンライン交流では、交流前に手作りのおもちゃをプレゼントしてもらったことで、交流することに期待をもち、感謝の気持ちを伝える姿に繋がった。

平野支援学校とは、5歳児が11月に発表会を見に行き、劇の内容が楽しかったことや直接交流できた喜びが心に残った。2月に園に招いた時は、久しぶりに会えた喜びを感じ、歌やふれあい遊びと一緒に楽しんだ。交流を重ねることで、より親しみをもち、5歳児から積極的に関わることもできた。

未就園児園庭開放では5歳児が中心となり、未就園児を遊びに誘ったり、遊具を渡したりして、優しく迎え入れ、親切に接することができた。園内でも日々、3・4歳児に優しく接していることから、未就園児にも、思いやりの気持ちをもって積極的に関わることもできたと考える。

取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】

令和4年度の保護者アンケートの、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で、「そう思う」が98%「やや思う」は2%であった。

- ① 「警備及び防災計画」や「安全（防犯）対策マニュアル」に基づき年間計画を作成し、時期や発達に応じてねらいをもち、火災5回、地震3回（内、保護者引き取り訓練1回、幼小合同避難訓練1回）、不審者侵入1回、預かり保育での火災1回、地震1回、防犯1回の計12回の避難訓練を実施した。訓練前には、例年にとらわれず、新たな目線で計画の見直しを行い、実施後は教職員で訓練の様子を振り返り話し合っって課題の改善を行うことで、子どもたちの命を守る体制整備を行った。

様々な想定や、発達に合わせて訓練方法を変えながら実施することで、子どもたちも教職員も、どのような場面においても落ち着いて行動する力を身に着けることができた。5月には、新入園児が避難訓練を理解できるよう、ベルの音を知らせたり、4、5歳児の避難する様子を見たりできるようにした。9月には、地震時の保護者引き取り訓練を行い、メール配信を使った保護者との連携体制を整え、共に訓練に取り組んだ。保護者も安全に対する意識を高めることができた。1月には、2次避難先である長原小学校との合同避難訓練を行った。津波発生時の避難先を知るとともに、小学生の刺激を受け、落ち着いて指示を聞き、行動できた。2月には、時間を知らせず、様々な場所で遊んでいるときに実施したが、落ち着いてベルの音や指示を聞き避難することができた。

- ② 通園路に教職員が立ち、降園指導を3回実施した。指導前には、子どもたちに絵本や紙芝居などで道路の安全な歩き方について知らせ、登降園時の安全に対する意識が高まるようにした。実施後は、保護者や子どもの様子を職員で振り返り、課題（雨天時の歩き方、自転車乗車時のヘルメットの着用など）を明確にした。課題についての注意喚起や、幼児期に交通安全を身に着けておく大切さをデータで示したものなどを、安全だよりもに記載し、配布した。保護者が率先して、保護者と手をつないで道を歩くよう子どもに知らせる姿が増えるなど、意識の向上が見られた。

園外へ出る前には、ペープサート等の視覚物を使った交通安全指導を行い、園外に出たときにも実際の場で指導することで、交通ルールや安全な行動を身につけられるようにした。指導内容はホームページに掲載し、どのような指導を行っているのか、保護者への啓発も行った。5歳児が3歳児を見守りながら歩いたり、電車に乗る際や道の歩き方などの約束を進んで守ったりする姿が見られ、子どもの安全に対する意識が向上した。

次年度への改善点
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>① 次年度も異年齢で関わる活動をもてるように実践を重ね、豊かな心の育成に努める。</p> <p>② コロナ禍の状況を踏まえながら、地域の方々との関わりのもち方、活動内容を工夫しながら継続して交流を深めていく。</p> <p>取組内容②【基本的な方向1 安全で安心な教育環境の実現】</p> <p>① 今後も、様々な想定で訓練を行い、緊急時に対応できる力を養う。</p> <p>② 引き続き降園指導を行い、見つけた課題や改善策を発信し、子どもも保護者も安全に対する意識を高められるようにする。</p>

大阪市立長吉第二幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標通りに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 令和4年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。 ○ 令和4年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○ 楽しく体を動かして遊びたい環境を工夫する。	A
指標 ① 月に1回以上、体を動かして遊べる環境作りについて話し合いを行う。 ② 体操やなかよし遊びの年間計画を作成し、保育に活用する。 ③ 地域の公園や園外保育地を活用し、広い場所で体を動かして遊ぶ機会を年4回もつ。	
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ○ 健康的な生活リズムや生活習慣が身につくよう、保健指導や保護者への啓発を行う。	B
指標 ① 子どもの実態に合わせた保健指導を月1回実施する。 ② 毎月、保健指導の内容をほけんだよりや掲示を通じて保護者に知らせ、啓発する。 ③ 長期休業中（年3回）も家庭で生活習慣が整えられるような取組をする。（早寝早起きカレンダーなど）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成】 令和4年度の保護者アンケートの、「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で、「そう思う」が90%「やや思う」は10%であった。 ① 体を動かす環境やクラスの子どもの実態について担任で話し合う機会を月4回以上もった。

各クラスの運動遊びの様子を知らせ合い、共通理解する中で、体力や体の使い方には経験の差や個人差が大きいことや、挑戦意欲がもちにくいなどのクラスの課題が見えてきた。それを踏まえ、環境作りや活動内容、援助方法などを検討し、保育に生かすことができた。5歳児は、『チャレンジノート』をつくり、自分なりに目標をもてるようにすることで、意欲が高まり、縄跳びや一輪車などの運動遊びに主体的に取り組むことができた。4歳児は、縄遊びをクラス全員でする時間をもったことで、教師や友達の姿から刺激を受け、自ら挑戦したり、できた喜びを共有したりすることができた。3歳児は、保育室に大型積み木やトンネル、滑り台などを使い、自然と体を動かしたくなる環境を作ったことで、安心して繰り返し遊び、体のいろいろな部分を動かして遊ぶことができた。

運動会では、運動会後にさらにいろいろな運動遊具に興味をもてるよう考え、ボールや縄などをお土産として渡した。それぞれに、継続して遊んだり、挑戦したり、友達と一緒に遊んだりして楽しむことができた。

年間を通して、定期的に遊戯室にサーキットのコーナーをつくったことで、雨天時でも体を存分に動かして遊ぶことができた。5歳児がイメージした製作物をそれぞれの遊具に飾るなど、子どもと共に環境構成をしたことで、子どもが主体的に遊ぶようになった。『アジサイの滑り台』『ザリガニの池を渡る橋（はしご）』などイメージを広げて3・4歳児も大喜びで参加し、カエルになりきって思わず遊びたくなる環境となった。

冬は毎日マラソンごっこを行った。子どもが親しみやすい音楽をかけたことで、楽しく走ることができた。また走ることで体が温まり、寒い日も戸外で存分に体を動かして色々な遊びを楽しめた。

また、既存の遊具を見直し、竹馬や、カラーボックスや大きいフープ、ラバーリングを買い足した。また木馬など、これまで使っていなかった遊具も活用した。それらのことで、様々な体の動きを楽しむことができた。

- ② 体操やなかよし遊びの年間計画を作成したことで、見通しをもって、各クラスの遊びや集会遊びに取り入れ、楽しむことができた。リズムに乗って体を動かすことは、子どもたちが自然と体を動かしたくなる気持ちにつながり、音楽が聴こえると喜んで集まってくる姿があった。子どもの興味や季節に合った体操やダンスをすることで、年間を通し、体を動かす楽しさを感じることができた。

- ③ 地域の公園を見直し、近隣公園の遊具のエリアを散歩の目的地として春に2回、秋に2回、活用した。公園の大型遊具で、ダイナミックに体を動かす楽しさを味わい、その楽しさから何度も鉄棒や雲梯に挑戦する姿も見られた。公園横のグラウンドでも存分に体を動かして遊ぶ機会をもった。

小学校との交流では5歳児が校庭でリレーをしたり、遊具で遊んだりした。風あげでは、小学校校庭や、東部中央公園グラウンドを活用した。そうしたことで、広い場で思い切り体を動かす心地よさを感じることができた。

園外保育は天王寺動物園と四天王寺、あべのハルカス展望台、てんしばに行った。てんしばでは、広い場で主体的にのびのびと遊ぶことができた。3学期には、体力が付き移動の際も長

い距離を歩けるようになり、階段の上り下りもスムーズになってきた。

取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

令和4年度の保護者アンケートの、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」が75%「やや思う」は25%であった。

- ① 毎月、体重測定後に子どもの実態や、発達段階に応じた保健指導を行った。生活習慣を整える指導（手洗い、はみがき、睡眠、姿勢）、季節・時期に合わせた指導（熱中症対策、けがの予防や対処、目の愛護、感染症予防）、食育指導（3色食品群、食事のマナー、朝食の大切さ）などイラストを用いた視覚教材や模型などを作成して、子どもが健康に興味をもてる指導を工夫した。また、保健指導で使用した視覚教材を、保健室前のホワイトボードに掲示したことで子どもが指導内容を再確認するのに役立った。子どもと一緒に指導内容を振り返ったり、個別に指導したりすることで、より子どもが自分の健康に関心をもち、行動しようとする姿につながった。
- ② 毎月発行しているほけんだよりでは、保健指導の内容を掲載した。また、保護者への講話を3回行った。噛むことの大切さや、生活習慣について保護者へ直接話したことで、保護者の意識が高まったことが講話後のアンケートから分かった。実際に保健指導で使用した視覚教材を、保健室前のホワイトボードや作品展で掲示したことで、保護者が子どもと一緒に保健指導の内容を振り返り、保護者から子どもに、内容について声かけをする姿があった。
- ③ 長期休業中も生活のリズムを保てるよう、長期休業中には『おはようおやすみカレンダー』（早寝早起きカレンダー）、『つよいはぴかぴかカレンダー』（歯みがきカレンダー）を発行した。保護者からは「21時になると『ねます！』と教えてくれるようになった。」「私のはみがきするのを忘れていたら『まだはみがきしてない』と教えてくれて、成長を感じた。」などの感想があり、子どもが自主的に取り組んでいることが分かった。また、歯みがきカレンダーの色塗りをするイラストには、噛み応えがある食材のイラストや動物の歯のイラストを載せ、親子共に関心をもって取り組める工夫をした。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ① 子どもが存分に遊ぶことができるよう遊具の数を見直す。
- ② 子どもの興味や季節に合った体操やダンスの教材研究を行い、楽しく体を動かせるようにする。
- ③ 今後も園外保育先や、地域を活用し、体を動かす楽しさを味わえるようにする。

取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

- ① 子どもの実態や課題を担任と共有、把握し、発達段階に応じた指導の内容を工夫する。
- ② 子どもの様子が伝わるよう、写真などを用い、より保護者が指導の内容に関心をもてるよう啓発の方法を工夫する。（ほけんだより、写真掲示、ホームページへの掲載など）

大阪市立長吉第二幼稚園 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標通りに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 令和4年度の保護者アンケートでの項目で「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ○ 子どもの実態把握に努め、就学前教育カリキュラム改訂版を活用し、教育環境を充実させる。	A
指標 ① 子どもが主体的に遊ぶことができる環境について、週1回教員間で検討し、整える。 ② 子どもが園内の自然に興味や関心をもてるよう、栽培物の年間計画を活用しながら、野菜や植物、果実などにふれる機会を月2回以上もつ。 ③ 年5回以上、園内研修会を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 令和4年度の保護者アンケートでの項目の、「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で、「そう思う」は100%であった。
① 週1回保育の打ち合わせを行い、子どもの実態や興味や関心について話し合い、教職員で共通理解した。それを基に、子どもが主体的に遊ぶことができる環境について、就学前教育カリキュラム改訂版を活用しながら、話し合い、環境の整備や再構成を行った。 また、5歳児を中心に、（春には、花屋さんごっこでやり取りを楽しむ、夏にはカエルのお話のイメージで体を動かして遊べる空間づくり、秋には素材の整備をしてつくって遊ぶことを楽しむ、冬にはお店屋さんごっこや楽器遊び など）環境構成を子どもたちと共に行った。何度も話し合い、意見を出し合いながら工夫して作ったり飾ったりし（知）、異年齢の友達に

遊びを伝えながら一緒に遊び、関わりを深め（徳）、存分に体を動かして遊んだり、年下の友達も安全に遊べるよう考えたりする（体）、などの姿が見られ、成長が感じられた。

- ② 栽培物の年間計画を活用して、栽培活動を行えた。畑で夏野菜や冬野菜を育てたり、親子で野菜栽培を春と秋に実施し世話をしたりしたことで、野菜の生長や収穫の喜びを味わえた。

園内の豊かな自然を生かし、果実の実りの過程などを月2回以上クラスみんなで見に行く機会をもち、日常的に畑や花壇の草抜きや水やりなどの世話をを行ったことで、草木の変化に気付けるようにした。生長の過程を知ることで、収穫への期待を膨らませ、喜びを存分に味わうことができた。

米づくりでは、田んぼに土を運ぶところから子どもたちと一緒にいき、田植え、稲刈りを経験し、保護者とともに脱穀、精米を行った。白米になるまでの過程の大変さを知ること、農家の方への感謝や残さず食べようとする食育につながった。

また、園内に咲く花や雑草を使い、春には生け花ごっこ、夏には色水遊びなどをし、季節ごとに咲く花を子どもたちと見に行ったり飾ったりして遊びに取り入れた。花の美しさに親しみながら、摘むと枯れる花の様子を知り、花を大切に扱おうとする意識が高まった。

- ③ 教員全員で、オンライン研修を10回実施した。研修内容について意見交換しながら学ぶことができた。6月には、園内研究保育を行い、教育指導員より指導を受け、9月には、大阪市教育委員会より講師を招いての発達支援講座を受講し、8、12月には巡回相談で支援の必要な子どもへの関わり方などを学び、実践に生かした。1月に受けた安全教育の研修で学んだことは保護者にとっても必要な情報であると考え、啓発を行った。また、小学校の授業見学をし、小学校教育や小学生の実態について学ぶ機会をもった。その他、身近な環境に関わり思いを伝えようとする子どもの姿の実践記録を書き、2回検討会を行った。計17回、教員皆で研修を行い、資質向上につながった。

その他、個人で研修会に参加した際には、研修資料を回覧したり、口頭で伝えたりし、学びを共有できるようにした。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ① 今後も子どもたちが主体的に遊べる環境について話し合い、子どもの実態を把握し、発達段階や興味、関心に応じて場を整えていく。
- ② 年間を通し、計画的に栽培活動を行う。また、園内の自然を生かし、子どもたちが豊かな体験ができるよう、保育内容を工夫していく。
- ③ 今後もオンラインや研修機関での研修を受け、資料の回覧や報告を行い、学びを共有できるようにする。

令和4年度 学校関係者評価報告書

大阪市立長吉第二幼稚園 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の幼稚園の自己評価結果は妥当である。コロナ禍の中だからこそ、大事にしたいことを考え、できることを教職員で模索しながら実践している。園児のために充実した園生活が送れるよう、常に教育内容、環境構成について検討し、工夫、努力していることが、保護者アンケートの肯定的評価の割合の高さからも分かる。

2 年度目標ごとの評価

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、いろいろな人とのふれあいを大切にしている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

○令和4年度の保護者アンケートで、「幼稚園は、安全教育の推進に努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする

○園児がクラスを超え、自然と関わっているのは職員の関係性がしっかりできているからである。人との関わりや校種間連携、地域とのつながりを大切にしていることが、実践の報告からも、よく分かった。

○津波の避難訓練では、小学校に避難しているが、実際に起きた時は状況を見極め、最も近い高層住宅に一時避難することも念頭においてほしい。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和4年度の保護者アンケートで「子どもは、すすんで体を動かしている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

○令和4年度の保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣を身につけている」の項目で、「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

○体を動かすことが無理なく、楽しんでもできるように、遊びや場の工夫をしている。幼児の興味、関心をしっかり捉えて日々の保育を工夫したことが、アンケート結果にも繋がっている。

○生活習慣は幼児期だけでなく、大人になっても大事なことである。園児だけでなく、保護者の意識を高めることも重要。今後も、創意工夫しながら継続して取り組んで欲しい。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和4年度の保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが意欲的に遊べる環境づくりに努めている」の項目で「そう思う」「やや思う」を70%以上にする。

○教職員が子どもから学ぶ、という姿勢で教育に向き合っている。幼児理解に努め、研修を積み、常に子どもたちのために尽力している。

3 今後の学校運営についての意見

○幼稚園は社会に出る第一歩。そこで人を信じることや好きになることを教えてもらい、心を育んでもらっている。これからも、温かい幼稚園づくり、教育を進めていってほしい。

○今後も、子どもの実態、時代のニーズを捉え、幼児期に大切なことを遊びながら身につけられるような取組をお願いする。